

障害のある人と共に働く人が 感じるメリットについて

安藤ゼミ 森宗由実

問題関心と目的

■知的障害のある人と共に働いた経験

⇒障害のある人と共に働くことの良さが広まって欲しい。

■障害のある人の雇用・就労についての研究

離職要因や難しさについての研究が多く、
障害のある人と共に働くことのメリットについての研究は少ない。



【目的】

- ・ 障害のある人の働く場への理解を深める
- ・ 障害のある人と共に働く人が感じるメリットを明らかにする
- ・ 障害のある人と共に働く人がどのようなことを心掛けているのかを検討する

参与観察による調査

【調査時期】

2020年2月19日から同年3月27日のうち18日間。
各日6時間程度。

【対象施設】

就労移行支援事業所

就労継続支援A型事業所

就労継続支援B型事業所

特例子会社

【調査方法】

見学や体験を通しての参与観察。

利用者、職員、従業員への非構造化面接。

表 調査日と対象施設、それぞれの取扱事業

	調査日	施設名	取扱事業
a	2/19～21	特定非営利活動法人 ならサポートワークラボ	就労移行支援事業
b	2/25・27	シャープ特選工業(株)本社	特例子会社
c	2/26	シャープ特選工業(株)八尾事業所	特例子会社
d	3/3～5	株式会社セルポート	就労継続支援B型事業 就労移行支援事業
e	3/9～11	株式会社ライフイノベーション (新大宮事業所)	就労移行支援A型事業
f	3/10	株式会社ライフイノベーション (油阪事業所)	就労継続支援B型事業
g	3/16・17・ 19	社会福祉法人ふろぼの (ITセンター榛原)	就労継続支援B型事業
h	3/23・25・ 27	社会福祉法人ふろぼの (ITセンター大和八木)	就労継続支援A型事業 就労継続支援B型事業

結果と考察

- 福祉的な就労の場であっても、利用者一人一人が能力を発揮して働いている。
 - ⇔みんなが仕事にやりがいを持っているわけではない。
- 職員は利用者のアセスメントを行う。
 - ⇔利用者から見られている意識を持ち働いている。
- 聞き取りにより得られたメリット
 - 「私生活で嫌なことがあっても、利用者と話をしていると癒される」
 - 「純粋な自分を見つけることができる」
- 調査者自身が感じたメリット
 - 思いやり。自分の“できない”部分も受け入れて貰える雰囲気。

質問紙による調査

【調査時期】

2020年10月29日から同年12月18日。

【回答者】

障害者就労支援施設職員と特例子会社従業員の計44名。

【調査方法】

質問紙

(Googleフォーム利用)

【質問紙構成】

問1～問8

性別、年齢(年代)、雇用形態、現在携わっている事業、現在仕事で関わる障害のある方がお持ちの障害種別、福祉職の通算経験年数、現在携わっている事業の内容と仕事内容、現在の職種・職場を選んだ理由

問9 職場で障害のある方と関わって、良かったことや嬉しかったこと

問10 職場で障害のある方と関わって、難しいと感じたこと

問11 職場で障害のある方と関わるときに心掛けていること

問12 職場で障害のある方と関わって、感じたこと

「素直な性格の人が多い」

結果①

職場で障害のある方と関わって、良かったことや嬉しかったこと

障害のある方の成長

成長や変化の確認(14)

就職先の決定(4)

自身の成長

障害のある方に対する
理解(3)

価値観の拡大(5)

エンパワメント(7)

仕事の成果(3)

障害のある方との関わりの 楽しさ

感謝の言葉や反応(7)

協力(3)

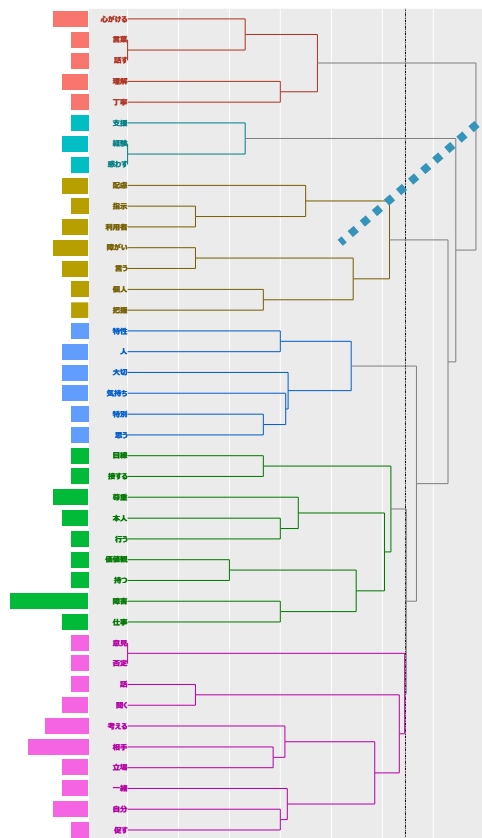
関係性の構築(2)

楽しさ(2)

※()内の数は記述数を表す。

結果②

職場で障害のある方と関わるときに心掛けていること



KH Coder 3
を利用し、
階層的クラ
スター分析
を行った。



相手が理解しやすい言葉で
丁寧に話す

固定観念に惑わされない

配慮しつつも配慮し過ぎない

障害ではなく特性と捉える

同じ目線に立ち、相手の価
値観を尊重する

相手の意見を否定せず話を
聞き、一緒に考える

考察

- [成長や変化の確認]についての記述が多く見られた。
 - ⇒障害のある人の成長や変化に注意することでより利点を感じられる。
- 年代や福祉職の経験年数が異なっても回答の内容は比較的似通っていた。
 - ⇒障害のある人と共に働く期間が短くてもメリットを得られる。
- 「職場で障害のある方と関わって、難しいと感じたこと」の結果より
 - ⇒障害のある人それぞれの特性を理解していても、対応は難しい。
 - ⇒困難感の軽減には試行錯誤が必要。

まとめ

- 困難感に比べて注目されていない、障害のある人と共に働く人が感じるメリットに注目した。
- 参与観察による調査により、障害のある人が働く場についての理解を深めることができた。
- 質問紙による調査を通して、障害のある人と共に働く人が感じるメリットが明らかになった。

障害のある人と共に働く人が感じるメリットが広く社会に知られるために...

障害のある人と共に働く機会の拡大が必要。

一方で... **困難感の軽減**を図ることも重要。



ご清聴ありがとうございました。